有限会社　ファナビス

調査団体名　：　(有)ファナビス
設立年　：　1999年
団体URL　：　https://www.majigire.net
活動拠点　：　岡崎市小呂町字三乃己田36-11
取材日　：　2018 年 1月15日
団体代表者名　：　稲垣光威
対応してくれた人の名前　：　稲垣光威
調査員　：　浜口美穂、沖　章枝、曽我部行子
レポート作成者　：　曽我部行子

活動内容

綿(わた)を種から育てる人、その綿をがら紡で紡いで糸にする工場、動力織機で織る工場、和ざらしの工場など、点として細々と残っていたそれぞれの仕事を繋いで、企画→製造→販売を行っている。
製品例：がら紡布タオル・ハンカチ「三河布史(みかわぶし)」、純木綿布ナプキン、純木綿ゆるゆる5本指くつ下「けっこう快適」、ウールガーゼ・セーター「羊品(ひつじひん)」、ウールガーゼ・ボディウォーマー「あったため得るウール」など。

キャッチフレーズ

布の地産地消をめざす

会のモットー(何を大切にしているか)　お客さんとは双方向で！

自分たちで作ったものを直接使う人に話をしながら手渡したい。お客さんを単に消費者にしない売り方をしたい。長く使った品物を自分流にリサイクルして使っている話を聞くと、それこそ望むところと嬉しい。
毎月21日、京都・東寺で開催される弘法市に出店している。お馴染みのお客さんもできた。

設立から現在に至るまで変化したこと

元々、滝町の紡績業を営む家に生まれたが、自らは繊維商社に勤め、1991年に退社。その後数人で生地卸会社をやっていたが、そのときは合繊や化学染料の製品を扱っていた。1999年一人でファナビスを始める。がら紡自体が機械化に押されて廃業化し、繊維業が海外の資本集中型の巨大工場に移行する中で、分業で成り立ってきた地域産の繊維業が、さらに廃業に追い込まれている様子に「布の地産地消」をめざし、2005年には、基本に戻るという意味を込め『本気布』(マジギレ)プロジェクトをスタートさせた。

連携している団体・専門家・自治体など

地産地消で製品化するために、綿を続けて作ってくれる人を探すことから、糸・織りや、洗い屋などの分業している人を探して繋いでいる。無農薬で綿をつくってくれる方と協力して、一緒に保育園などで綿のワークショップを行っている。

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動

大人と子どもを対象にワークショップを行っている。子どもには、繊維が綿(種)という植物から始まることを話す。大人には、原料の綿生産が持つ影の面、農薬使用などについて話す。
様々な年代に、繊維から見た明治維新・アヘン戦争・南北戦争などの歴史の事実を話すと、興味を持ってもらえる。

現在直面している課題

綿(わた)も自分たちでつくって完全な地産地消をめざしているが、収益を上げられないため綿生産を継続できない。したがって、綿は輸入品に頼らざるを得ないのが現状。

今後やってみたいこと

安定化するため、ガラ紡の機械を入れたい。日本でとれた綿で製品を作りたい。

チームオリジナルの質問

＜質問内容＞がら紡とはどんなものですか。
＜答え＞
1873（明治6）年ごろに日本で元僧侶、臥雲辰致によってイギリスから輸入された機械紡績に対抗して、手紡績道具を改良した紡績法である。紡績烹綿を入れた筒を回転させ少しずつ引き出して糸を紡ぐ。ガラガラと音がすることから名前がついた。水車を動力に木綿の産地で普及したが、西洋紡績法が主流になると減少した。物資不足の戦後直後は重用されたがその後衰退した。このあたりの地域では三河地方で発達した。
機械の構造は簡単で、打綿した綿花をブリキ製の綿筒の中に入れ、回転させながら上へ引き出すと、撚りのかかった太番手の綿糸ができるので、それを枠に巻き取る。その際にガラガラと音がする。
（稲垣さんのお話しを朝日新聞掲載「キーワード」の解説で補った。）

がら紡の特徴
繊維が短く捨てられてしまう「落綿」を使用できる。撚りが甘く不均一なでこぼことした糸は、手紡ぎ糸のような味のある風合いがでる。ふんわりと柔らかい。

チームオリジナルの質問

＜質問内容＞稲垣さんにとって、ファブリック（布・衣服）とは何ですか。
＜答え＞流行のないもので、ファッションとしてはみていない。一番多いアイテムの衣服を考え直したい。
人間が壊してきた環境ではあるけれど、折り合いをつけて、なるべく壊さない日常を心がける中のファブリックでありたい。

その他、伝えたいこと

稲垣さんは、娘さんが仕事を手伝ってくれるようになったことを心強くされていた。
『本気布』をマジギレ、がら防布　三河布史（みかわぶし）、ウール製品を羊品（ひつじひん）、あっため得るウール、など楽しいネーミングは、家族で知恵を絞った結果ということだった。

写真

稲垣光威さん

取材風景

ファナビスのチラシは、一緒に仕事をする娘の真凜さん担当

ワークショップで使う糸車